

ケニア

概要：UNAIDSの2018年のデータによると、ケニアでは、140万人の15歳以上の大人がHIVに感染しており、女性の感染者数が男性より多い。2018年には46,000人（全年齢）が新たに感染した。

ケニアはアフリカの中でHIV感染率の高い国のひとつであることから、WFPでは1995年よりエイズ予防教育を実施してきた。ハンドウ中学・高校の生徒や教職員、PTAに「エイズ時代に生きる」のパワーポイントを中心として医学的知識、予防法、生活の仕方も指導するとともに、人格教育も行っている。

実施状況

【2017】

1月9～10日と2日間、ハンドウ中学・高校にてセミナーを実施。1日目は「エイズ時代に生きる」を講義し、3,4年生を中心に300人が参加。また45人のPTAには家族の価値、道德教育の重要性などをスワヒリ語で講義を行った。2日目は人格教育を実施し、300人の生徒が参加。セミナー終了後のアンケートで、講義の内容を真剣にとらえる生徒が多い中、エイズにかかったかもしれないと不安をもつ学生もいたことが分かった。



ハンドウ中学・高校でのセミナー

【2018】

9月24日、学校の食堂で全校生徒600人を対象に「エイズ時代に生きる」を講義。翌25日には人格教育を講義。2013年はマラクシ中学・高校の女生徒が妊娠したケースは16人だったが、2018年は1人だけとなり、エイズ予防教育・人格教育の成果を実感した。

カリブ海

トリニダード・トバゴ

概要：1996年よりエイズ予防教育を実施。英語版「エイズ時代に生きる」の教材を使って現地のテーマを加えながらパワーポイントでセミナーを開催。ニーズに応じて、道德教育、自己抑制教育、人格教育のセミナーも開催。教育の対象は、小学校高学年、中・高校生、各種専門学校、保護者、教育関係者、コミュニティの人々。

実施状況

【2017】

- 11月に首都ポート・オブ・スペインの小学校4校と中学校2校においてセミナーを開催。8歳から14歳までの児童・生徒397人と教師22人を対象に道德教育と自己抑制教育の講義と「エイズ時代に生きる」の講義を実施。
- 11月18日、首都ポート・オブ・スペインのオール・セイন্ツ教会ホールにて、エイズ予防教育講師養成とプログラム紹介のためのセミナーを開催。ドミニカ共和国より人格教育の講師を迎え、「人格教育の必要性と優先権」について講演をいただいた。WFPトリニダード・トバゴ会員8人と教育関係者を含むゲスト18人が参加した。

【2018】

- 4月19日、キューロップにあるジョン・ジョン・ユースクラブの10歳から18歳までのメンバー28人を対象に、道德教育のセミナーを開催。
- 4月25日、サングレ・グランデ地区のマンザニーラにあるマンザニーラ中学校の13歳から16歳までの38人の生徒と教師1人を対象に、「エイズ時代に生きる」のセミナーを開催。
- 11月5日、キューロップのファティマ・RC・スクールの7歳から8歳までの80人の児童と教師6人を対象に道德教育の授業を実施。



マラバル中学校での授業



ツナブナAC小学校での授業